

なぜ人はキスをするとき頭を右に傾けるのか (1) : 日本人もキスをするとき右に頭を傾けるのか

越智, 啓太 / OCHI, Keita

(出版者 / Publisher)

法政大学文学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学文学部紀要 / Bulletin of the Faculty of Letters, Hosei University

(巻 / Volume)

88

(開始ページ / Start Page)

71

(終了ページ / End Page)

77

(発行年 / Year)

2024-03-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030892>

なぜ人はキスをするとき頭を右に傾けるのか (1)

—— 日本人もキスをするとき右に頭を傾けるのか ——

越 智 啓 太

要 約

キスをするとき人は頭を右側に傾けやすいというバイアスについて、日本人の調査協力者を用いて検討した。その結果、恋人間のキスにおいて、日本人でもこのバイアスが存在することがわかった。このバイアスは利き手と関係していた。ただし、その関係は弱く、このバイアスを説明するための他の仮説が必要である。

キーワード：キス行動、ノンバーバルコミュニケーション、恋愛関係、側制化

Always I've wondered where the noses would go.
 “For Whom the Bell Tolls” by Ernest Hemingway
 キスするとき鼻は邪魔にならないのね
 「誰がために鐘はなる」アーネスト・ヘミング
 ウエイ

問題

キス時における右側バイアスの発見と研究の展開

Güntürkün (2003) は、アメリカ、ドイツ、トルコの公共の場所（国際空港、大きな駅、ビーチ、公園）でキスをしているカップルを観察し、彼らがキスをするときに頭を右側に傾けるバイアスがあることを発見した。被観察者の年齢はおおよそ13～70歳の範囲だった。キスは1回だけの唇と唇が触れあうキスをもとに集計されたが、連続して複数回キスした場合には、初回のキスのみが集計の対象になった。観察された124のキスのうち、80 (64.5%) が頭を右に傾け、44 (35.5%) が左に頭を傾けていた。この差は統計的に有意であった ($\chi^2(1) = 5.34, p < 0.05$)。この傾向はその後、いくつかの研究によって確認されている。例えば、Barret & Greenwood (2006) は、実験室におい

てマネキン人形を使った実験によって77%の人がキス時における右側バイアスを示すことを明らかにしている。

ところが、その後、Sedgewick & Elias (2016) は、Güntürkün (2003) によるキス時の傾きの右側バイアス仮説に対して、反論を提出した。彼らが発見したのは「家族内のキスにおいては右側バイアスは見られない」ということである。彼らは、「母にキスをする娘」、「母にキスをする息子」、「父にキスをする娘」、「父にキスをする息子」を検索キーワードとして、SNS (Pinterest, Instagram) に掲載された親子のキスの合計529枚の画像を収集した。親子のカテゴリーのうち、156は母娘、134は母息子、113は父娘、126は父息子のキスだった。また、比較対象のロマンティックなキスとして、両親間（夫婦）のキスの写真161枚がさらに収集された。これらの写真について、評定者が、頭の傾け方向を右、左、真ん中の3つに分類した。その結果、両親間のロマンティックなキスでは、先行研究通り、右側バイアスが見いだされたが、親子キスではその逆の左側バイアスが見いだされた。

さらにSedgewick, Holtslander & Elias (2019)

も、非ロマンティックキスでは右側バイアスが存在しないという証拠を提出した。この研究では、First Kiss というオンライン動画が分析された。この動画サイトでは、初対面の二人が（もちろん同意の上で）キスをする動画がアップされている（つまり、ロマンティックキスではない）。23本の動画に描かれた230のキスにおける頭の傾きについて分析が行われた結果、カップルの51%が頭を右に傾けてキスを示し、49%が左に傾けてキスをしたが、有意な右側バイアスは存在しなかった。

キス時における右側バイアスの説明仮説

では、なぜこのようなバイアスが存在するのであろうか。これについて今まで提案された説、そして考えられる説としては以下のようなものがある。

1. 利き手仮説

Güntürkün (2003) が提出した最初の仮説であり、このバイアスの原因は利き手の左右非対称性に関係があるとするものである。つまり、「右利きの人が多いから右に頭を傾けやすい」というものである。我々の利き足、効き耳、効き目は右に2:1に偏っていることがわかっている。利き手はさらに右に偏っている（90%程度）が、これには、利き手の矯正などの文化的な影響が含まれている。この非対称性がキスにも影響しているというのである。ただ、この説では、なぜ右利きの人が右に傾けるのかについての説明が明確ではない。また、家族キスや非ロマンティックキスで右側バイアスが生じない理由も説明できない。

ところで、Güntürkün (2003) は、このキスバイアス問題についてひとつの興味深い論点を指摘している。それは頭の傾きのブッキング問題である。そもそもキスは二人でするものなので、キス当時者双方で傾きの方向が異なるとブッキングを引き起こす可能性があるということである。つまり双方が右、あるいは左に頭を傾ければうまくキスが出来るが、片方が右、片方が左に頭を傾けるとうまくキスができない。およそ4/9のキス

ではこのようなブッキングが発生しており、その場合、ランダムに調整し合って、右または左のキスが成立するのだと思われる。この数値はほぼ、彼らの研究データと一致するという（ちなみにこのブッキングが生じたときに、妥協して頭の向きを変えるのは頭を左側に傾ける人に多いということが、van der Kamp & Canal-Bruland, 2009によって示されている）

ただし、その後、Barret & Greenwood (2006) は、左利きの人でも右利きの人と同様にキス時の右側バイアスが生じることを示して、利き手仮説でこの現象をすべて説明できるわけではないことを指摘している。

2. 魅力度仮説

この説は、我々の顔は右顔よりも左顔の方が魅力的だと判断されることが多く（Blackburn, & Schirillo, 2012; Bruno, Bertamini, & Protti, 2015）、それゆえ、ロマンティックキスの場合に左顔がよく見えるように右側に頭を傾ける傾向が形成されたというものである。この説の背景となっているのは、進化心理学的な説明である。右側に頭を傾けるカップルのほうが左側に頭を傾けるカップルよりも（相手の魅力が高く認知されるが故に）関係を深化させやすく、繁殖する可能性が高かったために、長い時間をかけて右側バイアスが形成されていったというものである。これと関連ある仮説としては、赤ちゃんを母親が胸に抱くときにおける左側バイアスが顔の魅力の左右非対称性と関連あるのではないかという Malatesta, Marzoli & Tommasi (2020) などの研究がある。

この説の利点は、魅力度仮説だとロマンティックキスにのみ、右側バイアスが生じるという現象を説明できるという点である。

3. 運動プログラミング仮説

Shaki (2013) は、後天的な習慣がキス時の頭の傾きに影響を与えている可能性を指摘した。この研究では、従来、この種の研究でよく用いられていた西欧人の対象者（35人、北米あるいはロシ

ア出身の交換留学生）だけでなく、ヘブライ語を使用しているイスラエル人92人とアラビア語を使用しているパレスチナ人28人が対象とされた。

彼らに実験室に来てもらい、同じ頭の高さにある等身大の頭のマネキンにキスをするように求め、そのときの頭の傾きについて調査した。この実験の結果、興味深いことにイスラエル人とパレスチナ人は頭を左に傾けることが多いことがわかった。その比率はおおよそ2(左):1(右)であった。これに対して西欧の実験対象者は従来の研究通り右側に頭を傾けた。

次に、イタリア、ロシア、カナダの公共の場所でキスをしているカップル117組とイスラエルとパレスチナの公共の場所でキスをしているカップル203組を観察し、キス時の頭の傾き方向について記録した。観察場所は高校、バス停、モール、公園、クラブなどであった。キスをしていたカップルの年齢はおおよそ16歳から50歳であった。その結果、やはり、西欧においてはキス時に頭を右に傾ける傾向があるのに対して、イスラエルとパレスチナでは左に傾けることが多いことが示された。

では、この違いは何が原因なのか。イスラエル人とパレスチナ人の利き手や利き足を調べたところ、西欧人と同様右利きが多く、その比率は西欧人と変わなかった。そのため、いままでの研究が提唱していた利き手、利き足などの非対称性がキスにおける右側バイアスの原因であるという説は否定される。イスラエル人やパレスチナ人と西欧人とにある大きな違いは言語の記法である。彼らが使用しているヘブライ語とアラビア語の最大の特徴は文章が書かれるときに英語などの西欧言語と異なって右から左に書かれる。この言語記述習慣が、頭の動きの運動パターンを形成しその結果としてキス時の頭の回転方向が決定されている可能性があるのではないかというのである。

4. メディアによる学習仮説

メディアによる学習仮説は、映画やドラマなど

におけるキスシーンが何らかの理由で、左右の非対称性を生み出しており、それを観察学習する我々にメディアの通りの方向の右側バイアスが生じたというものである。魅力度假説でも述べたように我々は、右顔と左顔で表情表出に差がある可能性がある、そのため、監督などの演出家が情熱的なシーンを撮影しようとする場合に無意識的に一定の画角が好まれ削ってしまうのではないかというのである。ただ、この説の裏付けとなる映画やドラマのキスシーンにおける左右非対称性は実証的には確認されておらず、その点が一つの問題点になると思われる。とくに運動プログラミング説がいうように、英語圏とアラビア語、ヘブライ語圏でキス時の頭の方向けが異なるとするならば、それぞれの言語圏の映画におけるキスシーンの頭の傾けが異なる可能性があるが、これについても実証的なデータは報告されていない。

5. 深いキスのみ右側バイアスを生じさせる説

ロマンティックキスは、家族キスや非ロマンティックキスに比べて、より唇を密着させることが多い。ソフトなキスの場合、たんに唇を接触させるだけでいいので、正面向きで全く問題はないが、ロマンティックキスの場合は正面向きだと「鼻が邪魔になる」可能性がある。そのため、ロマンティックキスの場合のみ右側バイアスが顕在化するというのがこの考えである。

2. 調査:日本人を対象にしたロマンティックキスの右側バイアスの確認

ここまで示してきた研究の多くが、「挨拶代わりのキス」の習慣が存在し、町中でキスをしているカップルを見かけることが多い西欧社会での研究である。「挨拶代わりのキス」習慣がない日本人において、この種のバイアスが存在するかどうかについては確認されていない。もちろん、日本人における、家族キス、ハグの左右バイアスについての研究もほとんど存在しないと思われる。そこで、本研究では、日本人ではこの種のバイアス

が発生するかどうかを確認するとともに、諸仮説のうち、利き手仮説がどの程度成り立つのかについて検討を行ってみることにしたい。つまり、本実験の目的は以下の通りである。

- 1, キス時における右側バイアスの存在の確認
- 2, ロマンティックキスと家族キス, ハグにおける右側バイアスの比較
- 3, 右側バイアスと利き手の関係の確認

方法

参加者：調査には大学生，社会人合計 165 人が参加した。このうち，男性は 46 名，女性は 115 名，その他・無回答は 4 名であった。

手続き：調査は集団で対面で行い，教示等は口頭および書面の両方で行った。教示の後，研究参加に同意した参加者に対して，以下の 3 つの質問を行った。

問題 1：目の前に恋人がいることを想定してください。これからその人とキスをするとして。そのとき，あなたは頭を右に傾けますか，左に傾けますか，それとも正面のままキスしますか。回答欄に右・左・正面とありますので該当するところに丸をつけてください。

問題 2：目の前に親しい家族がいることを想定してください。これからその人とキスをするとして。そのとき，あなたは頭を右に傾けますか，左に傾けますか，それとも正面のままキスしますか。回答欄に右・左・正面とありますので該当するところに丸をつけてください。

問題 3：あなたは久しぶりに恋人と会いました。その人と再会を祝ってハグをするところを想像し

てください。あなたの頭は右に傾いていますか，左に傾いていますか，それともどちらかにも傾けていませんか。回答欄に右・左・正面とありますので該当するところに丸をつけてください。

なお，現在交際中の恋人がいない場合や過去に交際相手がいなかった場合は，空想の恋人を想定するように口頭で教示した。ただし，相手が実際の人物か空想の人物かについての情報は収集しなかった。また，問題 4 としてセルフィーを撮影するときの方向についても回答させたが，それは今回の報告では分析対象としない。

回答終了後，利き手を測定する尺度である日本語版フランダース利き手テストに回答させた（大久保・鈴木，2004）。これは，「文字を書くときペンをどちらの手で持ちますか」などの 10 問の質問に右・左・どちらでもの三者択一で回答するものである。

結果

キスにおける右側バイアス

各条件ごとの回答を表 1 に示した。 χ^2 検定の結果，恋人キス（ $\chi^2(2)=128.109$, $p < 0.01$ ），家族キス（ $\chi^2(2)=20.109$, $p < 0.01$ ），ハグ（ $\chi^2(2)=62.109$, $p < 0.01$ ）となり，対数線形分析の結果，すべての条件で右＝左＝正面の期待値から逸脱していた。次に正面と回答したものをのぞき，左右と回答したもののみで二項検定を行ったところ，恋人キス（右＞左）が 1% 水準で有意となったが，家族キス（右＞左）は 5% 水準，ハグは有意な差は存在しなかった。最後に各条件ごとに男女に分けて分析を行ってみたが，男女の傾向はほぼ同様

表 1, 各条件における頭の傾き

	右	正面	左
恋人キス	122 (73.9)	9 (5.5)	34 (20.5)
家族キス	54 (32.7)	79 (47.9)	32 (19.4)
ハグ	89 (53.9)	9 (5.5)	67 (40.6)

() 内は% ; n=165

表 2, 恋人キスにおける頭の傾きの性差

	右	正面	左
男性	37 (80.4)	2 (4.3)	7 (15.2)
女性	82 (71.3)	7 (6.1)	26 (22.6)

() 内は% ; n=165

性別を（その他・無回答）としたものは、分析から除外した。

表 3, 家族キスにおける頭の傾きの性差

	右	正面	左
男性	14 (30.4)	28 (60.9)	4 (8.7)
女性	39 (33.9)	49 (42.6)	27 (23.5)

() 内は% ; n=165

性別を（その他・無回答）としたものは、分析から除外した。

表 4, ハグにおける頭の傾きの性差

	右	正面	左
男性	31 (67.4)	3 (6.5)	12 (26.1)
女性	57 (49.6)	5 (4.3)	53 (46.1)

() 内は% ; n=165

性別を（その他・無回答）としたものは、分析から除外した。

であった（表 2～4）

つまり、恋人キスにおいては、先行諸研究と同様に右側バイアスが存在し、家族キスについても先行研究と同様に正面バイアスが存在した。ハグについては右側バイアスは存在するもののほかのものとは比べると弱かった。また、これらの傾向に男女差はなかった。

各条件ごとに傾ける方向の傾向の関係について、Speraman の相関係数を算出したところ表 5 のような結果が得られた。恋人キスで頭を傾ける方向はハグにおいて頭を傾ける方向と有意に関連していたが、家族キスでの方向とは関連していなかった。家族キス時の傾け方向はハグの傾け方向とは関連していた。

右側バイアスと利き手の関係

利き手についてのフランダース利き手テストについて、おのこの項目について右と回答した場合を 2 点、どちらもと回答した場合を 1 点、左と回答したものを 0 点として、参加者ごとに合計点を算出した。その結果、平均値は 18.64、標準偏差 4.138 となったが、歪度は -0.378 で大きく歪んでいた。これは右利きのものが圧倒的に多かったことに起因するが、もともとこのテストではこのような結果が得られるのが普通である。左右利き得点が等しい 10 点を分割点として、それ以上のものを右利き、以下のものを左利きとした場合、

表 5, それぞれの評定値の Spearman の相関係数

	恋人キス	家族キス	ハグ
恋人キス	1		
家族キス	.046	1	
ハグ	.293**	.257**	1

**p < .01

右利きのものが156人(94.5%), 左利きのものが9人(5.5%)となった。

右利きのものが圧倒的に多く、利き手と右側バイアスの相関について直接分析するのは難しかったため、恋人キス、家族キス、ハグそれぞれについて、右、正面、左と回答した被験者ごとのフランダース利き手テストの得点を分散分析した。その結果、恋人キスにおいては、右側バイアスを示したものと正面としたものが左としたものにくらべ得点が高い($F(2,163)=6.61$; Tukey HSD 正面=右>左), 家族キス($F(2,163)=6.642$), ハグ($F(2,163)=2.75$) においては有意な差は認められなかった。

考察

本研究では、キス時における右側バイアスが、「挨拶代わりのキス」の習慣のない日本で存在するかどうかについて検討を行った。その結果、恋人同士のキスにおいては、西欧諸国における先行研究と同様にかなり強い右側バイアスが生じることがわかった。また、このバイアスは家族キスではほぼ消失したが、これについても先行研究と同様であった。ハグにおける右側バイアスは存在しなかった。

また、このバイアスが利き手から説明できるかについて、フランダース利き手テストの得点と右側バイアスの関係について検討した。その結果、確かに右側バイアスを示したもののほうが利き手テストにおいても右手の得点が高かったが、その得点は正面のものと変わらず、また、家族キスやハグにおいては、そのような関連は見られなかったため、少なくとも利き手の要因のみによってこのバイアスが説明できるということはなかった。ただし、本研究では、左利きのもののサンプルがかなり少なかったため、今後この問題については引き続き検討していくことが必要であろう。

また、もちろん、本研究においては利き手仮説以外には検討できなかったため、今後は他の仮説についても順次検討していくことが必要である。

文献

- Barrett, D., Greenwood, J. G., & McCullagh, J. F. (2006). Kissing laterality and handedness. *Laterality*, 11 (6), 573-579.
- Bruno, N., Bertamini, M., & Protti, F. (2015). Selfie and the city: a world-wide, large, and ecologically valid database reveals a two-pronged side bias in naïve self-portraits. *PLoS One*, 10 (4), e0124999.
- Blackburn, K., & Schirillo, J. (2012). Emotive hemispheric differences measured in real-life portraits using pupil diameter and subjective aesthetic preferences. *Experimental brain research*, 219 (4), 447-455.
- Güntürkün, O. (2003). Adult persistence of head-turning asymmetry. *Nature*, 421 (6924), 711.
- Malatesta, G., Marzoli, D., & Tommasi, L. (2020). Keep a left profile, baby! the left-cradling bias is associated with a preference for left-facing profiles of human babies. *Symmetry*, 12 (6), 911.
- Packheiser, J., Rook, N., Dursun, Z., Mesenhöller, J., Wenglorz, A., Güntürkün, O., & Ocklenburg, S. (2019). Embracing your emotions: affective state impacts lateralisation of human embraces. *Psychological research*, 83 (1), 26-36.
- 大久保衛亜, & 鈴木玄. (2014). 日本語版 FLANDERS 利き手テスト——信頼性と妥当性の検討——. *心理学研究*, 85 (5), 474-481.
- Sedgewick, J. R., & Elias, L. J. (2016). Family matters: Directionality of turning bias while kissing is modulated by context. *Laterality: Asymmetries of Body, Brain and Cognition*, 21 (4-6), 662-671.
- Sedgewick, J. R., Holtslander, A., & Elias, L. J. (2019). Kissing right? Absence of rightward directional turning bias during first kiss encounters among strangers. *Journal of Nonverbal Behavior*, 43 (3), 271-282.
- Shaki, S. (2013). What's in a kiss? Spatial experience shapes directional bias during kissing. *Journal of Nonverbal Behavior*, 37 (1), 43-50.
- van der Kamp, J., & Canal-Bruland, R. (2011). Kissing right? On the consistency of the head-turning bias in kissing. *Laterality*, 16 (3), 257-267.

注) 本研究は法政大学文学部心理学科倫理委員会によって承認された(承認番号 23-0024)

Why do people tilt their heads to the right when kissing? (1)
Do Japanese people also tilt their heads to the right when kissing?

OCHI Keita

Abstract

There is a bias that people tend to tilt their head to the right side when kissing. In this study, we examined this hypothesis using Japanese subjects. The results showed that this bias exists even in Japanese people when it comes to kissing between romantic partners. This bias was related to handedness. However, the relationship is weak and other hypotheses are needed to explain this bias.

Keywords : Kissing, Nonverbal communication, Romantic relationship, Laterality